

平成27年度 第3回白井市市民活動推進委員会会議録（概要）

1. 開催日時 平成28年3月1日（金）午後1時20分～4時15分
2. 開催場所 白井市役所3階第2会議室
3. 出席者 鍋嶋洋子委員長、林 章副委員長
市川温子委員、橋本皓次委員、黒添 誠委員、山田敏子委員
赤間賢二委員、米澤拓也委員、高安敬子委員、上坂千昭委員
嶋田昇二委員（名簿順）
4. 欠席者 なし
5. 事務局 川上課長、松岡主査補、高瀬主任主事
6. 傍聴者 3名

7. 議事

平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）の審査

（1）補助金審査の事前確認及び意見交換〔非公開〕（資料 1、2、3）

（2）公開プレゼンテーション〔公開〕（資料 4）

1）ときめきマルシェプロジェクト

2）大松GD会

3）介護・認知症の家族と歩む会・白井

（3）補助金審査〔非公開〕

（平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）申請書類一式、審査用紙、資料 5）

8. 会議概要

（1）補助金審査の事前確認及び意見交換〔非公開〕（資料 1、2、3）

＜補助金審査の事前確認と意見交換を実施＞

（2）公開プレゼンテーション〔公開〕（資料 4）

[事務局] それでは、皆様はおそろいでしょうか。公開プレゼンテーションは、傍聴者をお迎えして開催させていただきます。傍聴者の方にも資料4をお渡ししております。公開プレゼンテーションの開催に先立ちまして、幾つか皆様にお伝えをいたします。

市では公益活動を実施する市内の団体を対象に、市民活動を支援する補助制度を創設し、市民参加・協働のまちづくりを推進しているところです。このたび、平成28年度市民団体活動支援補助金（活動立上型）を募集したところ、設立後3年未満の3団体から申請がありました。それぞれの団体より申請された事業について、学識経験を有する人、

公共的団体などの代表者、公募市民で構成する市民活動推進委員会が申請書類とあわせ、これから行います団体による発表と質疑を含め、総合的な観点から補助金の採否について審査を行います。

今年度から、団体による発表と質疑を公開形式とし、市民活動を広く市民の皆様に知っていただくための機会も兼ねまして、公開プレゼンテーションを実施することといたしました。

<資料4に基づき、公開プレゼンテーションの進め方について説明>

1) ときめきマルシェプロジェクトの発表と質疑

[発表者1] これから、私たちときめきマルシェプロジェクトの活動をご説明します。私は代表の〇〇と申します。

[発表者2] 幹事の〇〇です。

[発表者1] どうぞよろしくお願いいたします。

[発表者2] よろしくお願ひします。

[発表者1] ときめき、皆様はこの言葉を聞いてどのような印象をお持ちでしょうか。私たちはこの言葉に大きな可能性を感じ、これをキーワードに活動を展開しようとしています。

私たちは、来年度3回にわたりマルシェを開催する予定です。マルシェというのは、フランスで定期的に行われる市場のことで、フランスの市民はその市場で商品を挟んで、店主との会話を楽しんだり、市場の持つにぎわいを楽しんだりしています。私たちの開催するマルシェも、そんなわくわくするような高揚感、つまりときめきをこの白井市の皆さんに味わっていただけるよう、さまざまな趣向を凝らしてまいります。

昨年実施したマルシェの映像をごらんください。こちらは梨のさわやかな風味を生かした特製の豚丼のタレです。こちらは梨のジュースです。こういった商品を並べ白井の特産品である梨の恵みを感じてもらいました。地産地消のかけ橋を意識し、白井市内で飼われている鶏の卵を販売、ご近所野菜として地元農家がつくった野菜も並べました。手づくりのステンドグラスが持つ輝きに足をとめる来場者もありました。若いママたちが出店したさまざまなデザインの小物です。出店を楽しめるのもこのマルシェの特徴です。

ワークショップでは子供たちが一生懸命に手を動かしていました。それぞれが大好きなものに思いを込めた、個性あふれるフラッグを作成しました。このように来場者参加型ブースを設けて、手を動かし作成したもので会場を飾り、にぎわいを増幅させる演出を工夫しています。

昨年に社会実験として市の職員の方々と私たちとで開催したマルシェで、私たちは経験と手応えを十分に得ることができました。私たちはこのにぎわいが白井市に定着することを目指し、新たに市民団体を設立しさらに活動を展開してまいります。

先ほど社会実験と申し上げましたが、その目的には魅力あるまちづくりが延長線にあります。国単位でも人口減少が問題となっている現在、人口確保には各自治体があらゆ

る対策を始めています。子育て世代の定住促進が一番のカンフル剤として考えられており、その世代が魅力を感じるようなにぎわいづくりがその近道とされています。

私たちが訴えかける対策としては、20代から40代の子育て世代の女性に照準を当てております。私たちの主力メンバーの属する世代、生活スタイルを対象とすることにより心情理解を企画に反映させやすいことが理由です。それに加えその層が持つコミュニティ内での発進力は利用価値が高いと判断したためです。その層を入口に、出口は市民全体として、ときめくにぎわいを発信していくことが私たちの目的となります。

そのため告知は効率よくより効果的に行いたいと考えております。マルシェの開催をターゲット層に告知する有効な手段の一つとして、私たちはチラシを作成し市内の幼稚園、保育園、小学校に配布するという手段を活用したいと考えております。私たちは補助金をチラシ印刷費用として、ときめくまちづくりのきっかけとしたいと考えております。チラシにはときめきとにぎわいが十分に感じられるようにカラフルで楽しいデザインを印刷します。チラシを子供に持ち帰ってもらい、母親を経由して家族全員が手に取って見て、ときめきの予感を持っていただくのがその狙いです。

ときめきとみどりあふれる快活都市のため、私たちが起爆剤になりたい。この白井市で子育てを経験した私たちだからこそできる活動に自信を持っております。この活動にご理解をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

〔発表者2〕 よろしくお願ひします。

〔拍手〕

〔委員長〕 はい、プレゼンテーションをありがとうございました。市民活動推進委員会の委員長〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。この後、質疑応答の時間を10分間ほどとりたいと思います。委員から適宜質問をさせていただきますのでご回答いただければと思います。時間が限られていますので、的確な内容でお答えいただければと思います。では、委員でご質問のある方は挙手いただければと思います。はい、〇〇委員。

〔委員〕 委員の〇〇です。よろしくお願ひします。

〔発表者1〕 よろしくお願ひします。

〔発表者2〕 よろしくお願ひします。

〔委員〕 3点質問がございます。概要に出店数が20団体とありますけれども、団体の構成員は20名ですが、その方たちも出店する可能性はあるのですか。

〔発表者1〕 全員ではありませんけれども、出店する可能性のある方はいます。

〔委員〕 広く市民が出店しやすいようになるかが心配です。もう一つは、あらかじめ設定したテーマについて幾つか教えていただけたらと思います。あともう一つは支出の事業費の使用料の備品について具体的に教えていただけたらと思います。

〔委員長〕 では、3点についてご回答いただければと思います。

〔発表者1〕 出店者の数でしょうか。

〔委員長〕 そうですね。出店者が20店と想定されていますけれど、公募してどのくらいの出店があるとか、昨年度の実績もあれば教えてください。

〔発表者1〕 昨年度は25の出店者がありました。今年は一応20団体ということですが、公募して30とか出店希望があった場合は、それでも受け入れようかなとは思っております。

[委員長] はい。それでは次の出店テーマについてはいかがでしょうか。

[発表者2] 今月に行われます白井ホワイトフェスティバルのような、例えば白いものを集めてみるとか、まだ3回分の具体的なテーマは決まっていますが、何か趣向をこらしたり、それからカラーなどそういうものでアピールできるものをこれから選んでまいります。

[発表者1] レンタル費用の内容は、夏場の9月とかですと暑いので、来場者用の大型のテントをレンタルしようかなと考えております。

[委員長] ご質問いただいた〇〇委員よろしいですか。

[委員] はい。テントは市から借りる方法もあると思いますが、レンタルされるということですね。

[発表者1] そうですね。ちょっと見栄えのいいもので、赤いものとか色のついたものを考えています。

[委員] なるほど。わかりました。雰囲気的大事ということですね。

[委員長] イベント保険が1回分だけ計上されていますが、開催回数は3回と想定されており、そのあたりで保険料はどのような内訳になりますか。

[発表者1] 市で無料にて入れる保険ができるということで5月には間に合わないのですが、9月と12月の分はそちらの保険で対応させていただきたいと思っています。

[委員長] 5月の分だけ計上していますということですね。

[発表者1] はい。

[委員長] では、ほかの委員からご質問ありますか。はい、お願いします。

[委員] チラシ等を学校や保育園や幼稚園を通じて配りたいということですが、これはPTAなどと協力したりタイアップされるのですか。

[発表者2] それは特にございません。来場者が連れてくる子供が大体幼稚園、保育園、小学校の世代になります。保育園は大抵私立のところ、幼稚園は全部私立しか白井市内はないものですから、PTAとかを通じてではなく直接保育園や幼稚園にお渡しして配るような感じになります。小学校は、市の教育委員会の協力をいただいて、そこから学校主体で配っていただくようになると思います。

[委員] マルシェは売買を目的としています、学校という公の媒体を使うことはどうなんでしょうか。

[委員長] これは趣旨が公益的であることから、教育委員会との調整ややりとりの中で、チラシの配布を行いたいというご提案でよろしいですかね。

[発表者2] 利益を目的としてやるイベントではございません。利益重視ではなくて社会貢献ということを主体に考えておりますので、その辺を教育委員会の方にもよくご説明し、協力をお願いしたいと思います。

[委員長] そうですね。ほかに委員からご質問ありませんか。〇〇委員、お願いします。

[委員] 集客対象が20代から40代の女性とその家族や友人ということですが、このイベントには年齢の制限があるのですか。

[発表者1] 年齢の制限はありませんので、いろんな方に来ていただきたいと思います。

[委員] 特に年齢の制限がなければ、あえて集客対象を書かない方がいいのかなと感じ

ます。

[発表者2] お配りした資料の中には、そのようになっていたと思います。私たちの気持ちとしては、入口をその世代に絞っていますが、出口としては白井市民全体を考えています。その女性のパートナーや、お父さまとか、お母さまとか、いろいろな方にどんどんいらしていただくことを最終的な目的としています。

[委員] この事業目的と事業概要に、あえて年齢のくくりは入れないほうがいいのかと感じました。

[発表者2] わかりました。

[委員長] ご意見ということでいいでしょうか。

[発表者2] 承ります。ありがとうございます。

[委員長] ターゲティングしていくことで、まとまった形でのインパクトある企画を打ち出す側面もあるかと思うので、〇〇委員の意見も少し参考にさせていただくということによろしいでしょうか。

[発表者2] はい、承知しました。

[委員長] ほかの委員の方からご質問ありませんか。〇〇委員、お願いいたします。

[委員] 昨年9月に西白井駅前でマルシェが行われましたが、今回は3回とも白井総合公園で開催となっていますが、これは決定なのでしょう。それから雨天時はどのように対応するご予定でしょうか。

[発表者2] 去年とは場所をかえ白井総合公園で開催する理由ですが、来場者のアンケートでもうちょっと広い所がいいというご意見が多数ありました。それと西白井駅前ですとどうしても通行の妨げになってしまった面がありました。お店の側に寄せていましたが、それでも幅が限られていましたので、どうしても日常生活に支障をきたす方がいらっしゃいました。公園は場所も広いですしトイレもあるということで、総合公園での開催を考えております。

[発表者1] 雨天は予備日を設定して、そちらで対応をしたいと思います。

[委員] 総合公園で火を使用する場合に許可はおりるようになっているのですか。

[発表者1] 大丈夫です。許可は取れています。

[委員長] 事前の調整は必要だと思いますので、そのあたりは協働する課と調整し取り組んでいただくということによろしいですか。

[委員] 前回私もマルシェを見させていただきましたが、活動自体は素晴らしい活動だったと思います。ちょっと残念だった点は、商店街にうまく話が伝わっておらず、協力関係がちょっと足りなかったように思います。

[発表者1] そのあたりは市役所が対応していたので、私たちにはちょっとわかりません。

[委員長] そうですね。今の意見も踏まえ調整をしていただきながら、会場の担当となる商工関係とも協力をするような形で開催いただければと思います。では、質問の時間終了ということで、今日はどうもありがとうございました。

[発表者1、2] ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

[拍手]

[事務局] それでは、本日の結果については3月下旬までに市民活動支援課より通知させ

ていただきます。では本日はこれで終了とさせていただきます。ご参加どうもありがとうございました。

[発表者1、2] ありがとうございます。

[拍手]

2) 大松GD会の発表と質疑

[事務局] それでは、大松GD会の皆様、発表をよろしく願いをいたします。

[発表者] どうも、初めまして。私、大松GD会の会長をやらせていただいています〇〇と申します。本日、副会長の〇〇が来る予定でしたが、急遽風邪をひきまして、今日は監査役の〇〇と会計担当の〇〇と3名で出席しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今、お話ありましたとおり、大松GD会は今回この発表につきましては、昨年12月1日の白井広報に掲載されました、市民活動を応援するという記事を拝見いたしまして、応募させていただいたわけでございます。

大松GD会の発足は、平成26年4月からでございます、今月で満2年になります。それで、大松GD会の目的は応募申請書に記載したとおりでございます、大山口小中学生の登下校時の交通安全指導と見回り、それから大松中木戸地区の防犯パトロール、これを中心に安心・安全な通学と地域防犯活動でございます。

皆様方ご存じのとおり、毎日痛ましい事故が発生しております。多くのメディアで通学時の事故が報道されており、中には死亡事故も含まれております。先ほどニュースを見ておりましたら、今日も小学生が3人ほど亡くなっております。昨日は小学生の殺人事件が裁判で争われており、こういう痛ましい事故を白井からなくそうという発想で私たちもご協力しているわけでございます。

私たちの前任者は個人のボランティアとしてやっておられたんですけど、年齢が80歳を過ぎ、急遽2年前にやめられちゃって誰もいなくなっちゃったと。そういうことで、PTAの役員の方が我々に相談をかけられまして、どなたか協力してくれる方はいませんかというようなことで、私たちはゴルフの同士の同好会でGD会の名称もゴルフ同好会ということが発端でつけているわけでございます。大松GD会はそういう事情で出発し、26年の4月に市役所の市民安全課に自主防犯組織として登録いたしまして、ご審査もいただき防犯チョッキと帽子それから誘導灯、笛、この4点を支給していただきました。それで、早速4月21日から始めまして、今日まで1日も休まず、登校日には朝晩指導をしています。それから、中木戸のほうは市の市民安全課から青色誘導パトカーを貸していただけるということで、1カ月に1週間だけという条件にて大松の防犯パトロール指導あわせてやっております。これも朝晩やっております。

それでいま県警の指導で各学校区単位に交通安全推進体というのがございます。これも大山口支部小学校地区にございまして、そこのご指導により私ども去年講習を受け、全員が県の認証をいただき、これをつけて毎日指導しているということでございます。

私たちは、その活動はボランティア活動で、先ほど言った4点セット以外は全て自前で

やっております。例えば防寒、かっぱだとか着た場合に・・・、終わりですか。

[事務局] あとは、また質疑のところやりたいと思います。

[発表者] 大体、そのようなことでございます。

[委員長] はい、プレゼンテーションをありがとうございました。市民活動推進委員会の委員長の〇〇と申します。よろしくお願いいたします。この後、質疑応答の時間を10分間ほどとりたいと思います。委員から適宜質問をさせていただきますのでご回答いただければと思います。時間が限られていますので、的確な内容でお答えいただければと思います。では、委員でご質問のある方は挙手いただければと思います。はい、〇〇委員お願いいたします。

[委員] 〇〇と申します。最後のほうの発表が切れてしまったんですが、市民安全課から物品の貸与を受けており、予算の消耗品で雨がっぱの外、活動者が身につけるものが1人当たりトータルすると、16,000円かかるようになっていますが、会員が今後増えたりした場合、どのように対応するのかをお聞かせいただきたいと思います

[発表者] 私たちのゴルフの仲間は、普通の一般ゴルフもありますし、パークゴルフの仲間もあり、グランドゴルフもあり、私も三つもやっているんですけどもね。やってる仲間は、50人ぐらいいますが仕事を持っている方もいますので、即参加できないんですけど。先ほど、ちょっと申しましたけど、大山口小学校自身で安全当番といって、女性の方が3人くらいずつ出ています。ただ、女性の方だけですと変な暴漢が出たり、そういうことがあったときに対応できないということで、ぜひ男性をとというような希望でございます。いろいろチョッキとか、そういうものについては買ってこれを交替で使うということですね。

[委員長] はい、わかりました。〇〇委員、よろしいですか。

[委員] そしたらご提出いただいている名簿が構成員は5名になっていますが、実際は5名以上いらっしゃるという考え方でよろしいですか。

[発表者] いいえ。今は5名です。

[委員] 今は5人。

[発表者] 月曜から金曜までの5人で、とりあえずやっているということです。

[委員] そこもあわせてちょっと伺いたいのですが、5人のローテーションでちょっと厳しくないかなあとも感じますが、いかがでしょうか。

[発表者] 例えば今日は私が当番なので朝やってきまして、午後は出られませんから次の例えば木曜日の〇〇と変わっているんですけど、今度木曜は私が午後はやるとかですね、5人いますので、特に穴があいたってというようなことは今までありません。

[委員] はい、ありがとうございます。

[委員長] ほかの委員の方から、ご質問をお願いいたします。

[委員] いま事故とか事件が多いので助かると思うんですけども、小中学校のPTA会費とか集めてると思うので、小中学校のPTAと連携してPTA会費から算出していただくことってというのは無理なんじゃないでしょうか。

[発表者] お金をいただいたことはないんですけど、私たち小学校の放課後教室なんかの指導のお手伝いもしています。

[委員] 多分、学校としてはすごく助かっていて感謝していると思うんですね。

[発表者] そうですね。教頭先生は毎月来てご挨拶いただいたり、学校のスケジュールを必ず事前にいただいてやらせていただいています。

[委員] 市内にこう広がっていく形でいいですよ。

[発表者] そうですね。それでさっきの説明で時間がなくなっちゃったんですけどね。私たち2年前に始めたころ、痴漢が4、5件続いたんです。それは特に女子生徒を狙った痴漢なんですね。私たちもすぐ聞いて飛んで行ってその辺を見たんですけど、捕まえることはできないし、私たち逮捕の権限はないんですけどね。それで、そういう活動をしているということで、ここ1年近くは痴漢が出なくなった。だから、男性が立っているということでかなり防犯効果が上がっているんじゃないかと思うんですね。それから、公園なんかにもホームレスがよく来ていたんですけども、白井の交番に何回か電話して指導していただくようにしたら、もうここ1年ぐらいホームレス等も大松には近寄らなくなっていて、そういうような効果もご報告しようかなと思っていました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの委員の方から、はい、〇〇委員、お願いします。

[委員] 青色パトロール車は今までも何度か借りて実施されているわけですよ。

[発表者] もう2年間ずっと毎月やっております。ただ、12月だけはお借りできないということで。

[委員] あと一つ、これ小さいことなんですけど、会則では14時30分から15時ごろまでと、主な活動実績では下校時の14時30分から15時30分となっているのですが。

[発表者] ちょっと私の説明が足りなかったのかもしれませんが、小学校の1年生が帰る日と1年から3年が帰る日と、多少学校でばらばらなんですね。だから、1年生が帰るだけですと短い時間でいいんです。ところが、3年生まで一緒に帰るとか、木曜日は1年から6年生までが一斉下校の日となっており、日によって多少違います。

[委員] そうなんですか。

[発表者] 一斉下校の日はかなり長い時間で、1年生だけですとせいぜい30分以内です。

[委員] あと、一つ把握できなかったのが、今5名いらっしゃるわけですよ。それで、毎日お一人が出ているということになるわけですね。

[発表者] 原則、責任者としては1人です。あと、我々の仲間や僕なんかもしょっちゅう朝、体操終わったら散歩していますので、周辺を一緒に回っているのですが、責任持って場所に立っているのは1人です。

[委員] その方が衣装を着ようというようなことで計画しているわけですよ。

[発表者] はい。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。今もベスト等は着用していらっしゃるってことなんですか。

[発表者] ええ。ベストと帽子をかぶっています。

[委員長] はい。では〇〇委員お願いします。

[委員] このスケジュールや事業内容を拝見させていただいて、下校時間午後2時30分か

ら3時まで活動されているようなんですが、小学生の下校時間に合わせてやられているのですか。

[発表者] 特に1年生、2年生の小さい子ですね。もう5年生と6年生になると部活をやっていますので、5時過ぎにならないと帰らないというような状況です。

[委員] 書類を見させていただくと大山口小学校、中学校を対象に活動をされているのですよね。こうなると、ちょっと違うんじゃないかなと思うのですが。

[発表者] 中学の登校時は、富士地区の生徒が300人ぐらい大松の橋を通り大山口中学へ来ているわけですよ。全部自転車で行っているわけですね。ですから、朝は小学生と自転車が非常に危険なわけなんです。

[委員] その小学生たちを見守るのが最大の目的ということですか。

[発表者] そうです。朝中学生は大体もう8時前に全部入ります。午後はほとんど部活やっていますので、3時ぐらいにはほとんど帰ってこないってことです。

[委員長] ありがとうございます。学校等で安全指導等は先ほど小学校で1校やってらっしゃるってことで、中学校は直接的にはそういった関わりはお持ちではないということですね。

[発表者] 特に自転車の通学、それから走り方とかそういうような指導を主体にしてやっております。

[委員長] はい、ありがとうございます。では、〇〇委員お願いします。

[委員] 既に実績があって会費を4,000円も取っているということで、とても私にはまねのできないことと感動をしておりました。

[委員長] はい、ありがとうございます。今のお話だと、正会員が4,000円で賛助会員が2,000円ということですが、今後会員を増やしていくために、何かこんな形で努力しているということがおありになりますか。

[発表者] まだ、今のところ皆さん元気でやっていらっしゃいますので、声をかけているような関係は、あんまり積極的にはありません。たまに、自治会なんかの役員会で、そういう方がいらっしゃいますかという話をすることがあります。

[委員長] はい、ありがとうございます。では時間になりましたので、質疑応答の時間を終わりにさせていただきます。

[発表者] ありがとうございます。

[委員長] 今日はどうもありがとうございました。

〔拍手〕

[事務局] 本日の審査結果は、3月の下旬までに市民活動支援課より通知申し上げます。本日はこれで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

[発表者] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。

3) 介護・認知症の家族と歩む会・白井の発表と質疑

[事務局] それでは介護・認知症の家族と歩む会・白井の皆さんから発表をよろしくお願いいたします。

[発表者1] 介護・認知症の家族と歩む会の〇〇と申します。よろしくお願いします。今回、私が提案させていただきましたのは、認知症に備えるということです。今はどちらかというと、介護予防とか、認知症の予防とかっていう言葉が氾濫していると思いますが、私どもは認知症は病気だという捉え方をしています。そうすると、幾ら予防してもなることはありますので、なったときにどうするのかということに重点を置いて、今私どもは活動をさせていただいています。

活動の内容は、一般的に認知症のサポーター養成講座を基礎の基礎という形でやらせていただいています。その上に、私どもでネーミングさせていただいたパートナー養成講座を3回もしくは2回やらせていただいています。

主なパートナー養成講座の内容は、認知症の方を家族がどのぐらいわかっているんだと。私どもの考え方とすると、ほとんどの方が介護される側のことを知らないという前提で勉強会をやらせていただいています。その大きな特徴がお父さん、お母さんの生まれ育った環境だとか、家庭環境、それから地域の環境だとかっていうことについて、お子さんたちがほとんど知らない。どんなことに喜んだり悲しんだりしてきたのか。そういうことも知らないで、どういう介護ができるんだろう。

私自身も母親の介護、日常の介護を5年やりました。私なりに一生懸命やりました。90%以上、私の思い込みで介護をしてきました。私自身が8年前に認知症という診断を受けました。それで受ける側に回ってみたら、何でこんな介護しかしてもらえないの。自分が言いたいことをどうしてわかってくれないの、何で白い目で見るという傾向にあります。そんなことでそれを地域に広げたいということで、今提案させていただいています。

私がここまで改善できた大きな理由が、周りの人の言葉がけです。言葉がけっていうと簡単のように思えますけど、私を腐らせないようなしゃべり方。私にその気にさせるような、私の言葉でいうとうまくだましてよという言葉使ったんですけど。その気にさせてくれるメンバー。それと余計な手助けは一切してくれませんでした。その前に私、脳梗塞で倒れて、心筋梗塞で倒れて、余命半年って言われていましたけど、それも何とか克服しています。そのあげくの果てに認知症になったんですけど、きっと今皆さんが、私が認知症って信じてもらえないかと思います。実は昨日、一昨日もこのお話をさせていただいて、うちのご主人が認知症ですけど〇〇さんと一緒に何か手伝いたいというお話もいただいています。

認知症の人をどれだけわかってあげられるか。それは地域の方がどれだけ優しい目で見ってくれるかだと思っています。極論を言いますと、認知症を重くするのは、家族だって私は言い切っています。なぜ、わかってくれないの。それと、批判的なしゃべり方をどうしてするの。私でもまたその話、もう聞いたわっていうような話も随分されました。でも、仲間がたくさんいてここまで引っ張ってきてくれました。おかげで〇〇さんは言葉の力の勉強会をずっとやってくれているのですが、ほとんど認知症の方が来てくれて

います。微妙ですけど、変わったって言っていただきます。

これが、私どもの今回、白井でやらせていただこうと思っている活動です。ぜひ、今回私どもが採用されるかどうか別ですけど、認知症って間違いなく増えます。2025年には軽度も含めて、1,300万から1,500万って言われています。そのときに、誰が認知症の人をサポートできるのか。これが私どもの願いです。ちょっと時間が余っちゃったみたいですけど。最終的には介護する側もされる側も笑顔でいてほしいということです。

[事務局] はい、どうもありがとうございました。

[委員長] プレゼンテーションをどうもありがとうございました。市民活動推進委員会の委員長の〇〇と申します。よろしくお願いいたします。この後、質疑応答の時間を10分間ほどとりたいと思います。委員から適宜質問をさせていただきますのでご回答いただければと思います。時間が限られていますので、的確な内容でお答えいただければと思います。では、委員でご質問のある方は挙手いただければと思います。はい、〇〇委員お願いいたします。

[委員] 今後のPRの方法についてお尋ねいたします。チラシと活動実績を見させていただきました。チラシには20名とか15名とか希望人数がございしますが、今後行政とか、ほかの団体との協力を得てもう少し人数を増やしていくためのPRの方法として、今考えていらっしゃることはございますか。

[発表者1] まずPRですけども、市の広報ではなかなか足りないもので、地域新聞、朝日さん、東葛毎日さん、それから印西の千葉ニュータウン何とかっていう方々が応援してくれるって言っていただいています。それと人数の件ですけど、あえて20名以上にはしていません。それは1対1で20人ですけど、講座が終わった後大体2時間皆さん残って、自分の実情や今問題として抱えていることをお話しいたします。1週間ぐらいたつと、その中からもっと個人的にということで、またお邪魔してやっています。そういう意味では、もう50人、100人っていうと上っ面になってしまうので、私どもは一人でも笑顔になればいいっていう、極端な言い方していますけれど。知識としてたくさん振りまいても、認知症の方の心の中をわかっていただけるってことは、非常に少ないと思っています。

[委員] よくわかりました。

[委員長] 収支の通信費ではがき400枚を内訳に書いてありますけれど、切手も200枚入れています。これは講座の案内用ってということですか。それとも別な用途ですか。

[発表者1] 講座の案内はもちろんですけど、交流会を数多くやっています。

[委員長] 誰宛てに発送するのですか。

[発表者1] 講座に来た方、そのときに相談に見えた方。ほとんどの方が認知症の家族もしくはご本人と一緒に我々といろんな話をさせてもらう機会が多いんですね。そういう意味では、チラシではなくはがきで出して。

[委員長] タウン誌等も活用してっていうのがありましたけれども、その広報見て参加された方に対してはがき等でご案内し、リピーターをつくっていくということですかね。

[発表者1] 結構重度のことを抱えている方たちにもう一回、そうすると、ほかの方の悩みが、もしかしたらその人の悩みと解決する方法につながるんじゃないかって。皆さんわかっていただけないと思いますが、認知症の方同士では話がある程度通じるんですね。

[委員長] はい、わかりました。では、〇〇委員、お願いします。

[委員] こういう活動はこの周りの似たような団体といかに連携プレーでやっていくかってのも大事になってくると思います。連携について今こういうところが足りないとか、ほかの団体のこういう力を借りてとか、その辺の何か一つ具体的なものはありますか。

[発表者1] 私ども、別にNPOを二つ持っていて、成年後見、これは千葉でもかなり大きくなっちゃいましたけれども、そのグループだとか、デイサービスを4カ所ぐらい今仲間がやっています。このようにいろんなグループと接点持っています。来週、鎌ケ谷でNPOナルクさんと一緒にやらせてもらいますし、印西の方たちともやらせてもらいます。いろんな団体と一緒にやらせていただいています。それと時々、この近くの大学の授業、学生さん相手の認知症の講座みたいなことをやらせてもらったりしています。

[委員] サポーター養成講座っていうのは、市、もしくは社会福祉協議会もやっていますよね。そちらとの関係はどうなっているのかということと、会員が7名ですけども、会費が10名分ということで、これから増えるだろうということを見込んでの10名ということですか。

[発表者1] サポーター養成講座は、言うのはちょっとはばかりですが、もう10年以上皆さんやっているはずなんです。受けた方の住所と名前が一切どこにも登録されていないんです。それで、私どもが今お名前をいただいて、次の講座やりましょうよっていうことでずっとやらせてもらっています。今回、午前中印西に行ったんですけど、印西は今年から名簿をもらうっていう話をしていました。会員はこれ以上増やす気はありません。

[委員] でも会費収入が10名となっていて、会員が7人になっていますが。

[発表者1] というのは、当事者なんです。私どものメンバーが当事者なんです。会則読んでいただけるとわかるのですが、会員というのは支援会員といって、協力するよって言ってくれた人が1,000円出してもらうんです。私どもは世話人というネーミングになっているのですが、世話人は会費を払っていません。

[委員] そうなんですか。はい、わかりました。

[委員長] はい。〇〇委員、お願いいたします。

[委員] 今回の助成金の申請に当たり、補助金の上限額で言うと8万円まで希望できたと思うのですが、6万円にあえてした根拠はございますか。

[発表者1] 特別それ以上は私どもの計画では使わないだろう。先ほど言ったように、20人とか15人でこつこつやりたいので、チラシをたくさんつくって、パンフレットをつくってという気はあんまりないですね。

[委員] 収支の計画だと、12万円トータルの事業費がかかっているのですが、8万円ここに充てたほうが、効果があるかなというようにも思います。

[発表者1] あまり行政からの補助金を当てにすると次の世代に続かないだろうと私たちは考えています。というのは、当事者なのでいつ倒れるかもわかりませんっていうメンバーが多いものですから。ただ、ありがたいことに支援会員という形でお手伝いいただける方がそれなりにいらっしゃいます。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] 今回の応募団体構成員名簿を見るとご住所が白井の方が5名で、今プレゼンな

さった〇〇さんと〇〇さんが柏にお住まいということで、白井の方たちがどちらかというところと中心メンバーというよりもお手伝い的になってしまわないでしょうか。白井市の補助金でもありますので、白井の方たちが主体となって活動されるというような内容で事業は進めていただけるのでしょうか。

[発表者1] はい。そもそも、白井にお邪魔するようになったのは駅前センターの講師として呼ばれたのがきっかけで、そのときに集まっていたいた方です。今はまだまだ白井にはそれほど活動拠点つくっていませんが、彼女たちが場所を決めてきたり、PRをしてくれていますので、頭は私になっていますけれど、実際は彼女たちが人集めもやってくれています。

[委員長] ほかにいかがですか。はい、〇〇委員。

[委員] 28年度もかなり講座組んでいらっしゃるんですけど、講師は〇〇さんがお一人でされるのですか。構成員の皆さんも分担してされたりするのですか。

[発表者] 認知症の当事者として、私とメンバーの誰か、認知症当事者がしゃべります。そのほかで、彼女たちがワークショップでどういう言葉の書き方がいいかをやります。

[委員] はい、わかりました。

[委員長] 〇〇さんから、ぜひ、いらっしゃったので、何か一言アピールがあれば。

[発表者2] 今、言葉のっていう別な会持っていて、認知症のことお手伝いというか、一緒にさせていただいているのですが認知症になったご家族とかいらっしゃると、とても前向きになれないですよね。なので、介護される方が元気にしていただくために、前向きな言葉がけとか、介護される認知症の方に対してできないことをいろいろ探すのではなくて、できることをたくさん見つけてあげられるっていう、そういう思いになってほしいなっていうことで、勉強会、ワークショップやっております。

[委員長] はい、ありがとうございました。では、時間になりましたのでこれで終了させていただきます。

[発表者1] ありがとうございました。

[委員長] どうもありがとうございました。

[拍手]

[事務局] 本日の審査結果は、3月の下旬ごろまでに市民活動支援課より通知させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

(3) 補助金審査〔非公開〕

(平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）申請書類一式、審査用紙、資料5)

＜(2) 公開プレゼンテーションを受け、ときめきマルシェプロジェクト、大松GD会、介護・認知症の家族と歩む会・白井の3団体の補助金審査を実施＞

使用した資料

資料 1 平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）の審査について

資料 2 申請団体への事前送付資料について

資料 3 公開プレゼンテーションの質疑における質問項目について

資料 4 平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）の審査に係る公開
プレゼンテーション

平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）申請書類一式

平成 28 年度白井市市民団体活動支援補助金（活動立上型）審査用紙

資料 5 今後の予定について～第 4 回市民活動推進委員会の開催～